

皆様のあたたかいご支援ありがとうございました。 『被災者の助け合いに 光を感じて』

2006年12月末日、SVAは6ヶ月間の救援事業を終了しましたので、ここにご報告致します。

耐震性の低さが招いた甚大な被害

2006年5月27日午前5時54分、インドネシア・ジャワ島中部の都市ジョグジャカルタ市近郊をマグニチュード6.3の地震が襲いました。この地震により5,800名が命を落とし、約40,000人が負傷、30万人以上が住む場所を失いました。真新しいビルは大きく傾き、学校、病院などの公共施設も被害を受けましたが、中でも震源地に近い農村部の被害は大きく、全家屋が倒壊した村も多数あります。地震エネルギーは阪神・淡路大震災の30分の1程度だったものの、レンガやコンクリートで造られた家屋の耐震性の低さが大きな被害を招く原因となりました。



倒壊した家屋

現地カウンターパートNGOと共に



TandaBacaスタッフと子どもの遊び場

『SVAの支援のあり方』

- ◆地域に根ざした活動の展開
- ◆人に寄り添い、より必要な人に必要な支援を
- ◆子どもと住民の安心のために

SVAは地震発生の1週間後に初動調査チームを現地に派遣し、以前より関係のあった現地NGOのSHEEP(シープ)とTandaBaca(タンダ・バチャ)を訪ねました。以降、この2団体をカウンターパートとし、共に『SVAの支援のあり方』を大切にしながら①図書館活動を中心とした子どもへの教育・文化支援 ②被災者への医療、仮設住宅支援を協働で行ってまいりました。



子どもの教育・文化支援活動



地震は子どもたちの居場所と笑顔を奪いました。耐震性の低い学校は倒壊し、遊び場だった集落の中は瓦礫で溢れ、家族や友だちを失いふさぎ込む子どもも少なくありませんでした。また、空き地に建てられたテントでの授業は暑さから子どもが集中力と体力を失い、舞い上がる埃の影響で体調を崩す子が、後を立ちませんでした。

SVAは、カウンターパートNGOのTandaBaca(タンダ・バチャ)と共に、被害の大きかったバントゥル県・グヌンキドゥル県内の支援が届きにくい7集落を対象に子どもの教育・文化支援活動を行いました。



子どもフェスティバルに参加した子どもたち

1 安心して過ごせる『子どもの遊び場』

5集落に5棟設置(2006年5月27日-12月)

図書館としても使用されているこの「子どもの遊び場」では、お絵かき、工作、絵本作りなど日々様々な活動が行われています。この活動ではTandaBacaのスタッフが集落に住み込みながら、集落の青年と共に子どもを支える体制をつくりっています。今後は青年が活動を引き継いでいきます。

また、この場所はコミュニティセンターとしても利用され、様々な村落会議、女性や青年の集いの場としても利用されています。

子どもの遊び場での読み聞かせ



完成した子どもの遊び場

2『子どもフェスティバル』

子ども150名、青年50名参加(2006年12月22日-24日)

長期化する被災生活のストレスを緩和するために、子どもたちが楽しめるフェスティバルを開催しました。期間中はゲームや竹の楽器作りなどを楽しみ、最終日には集落ごとに出し物を発表しました。また、これまでの活動の中で作成した作品や活動の映像が展示され、訪れた集落長や両親が目を細めて見入っていました。



3 幼稚園・小学校への『学用品』支援

幼稚園計8校(218名)、小学校計11校(1,500名)
(2006年7月-8月)

- 幼稚園児218名へ学用品20アイテム(カバン、鉛筆、ぬりえなど)
- 小学生1,500名へ学用品12アイテム(折りたたみ机、制服、文具など)
- 幼稚園8校へ備品30アイテム(教材、地図、教科書など)
- 小学校11校へ備品19アイテム(黒板、スポーツ用具など)
- 1,718名への給食支援



クドゥン・ボロー地区での学用品配布

4 青年研修会、女性のためのワークショップ

(2006年7月-12月)

- 青年研修会:持続可能な活動が展開されるために、子ども活動を担うべく集落の青年を対象に、子どもの活動の意義や手法を伝えました。研修後、青年たちは積極的に活動に参加するようになりました。現在は主体的に日々の活動を行っています。
- 女性のためのワークショップ:経済活動をより活発に行いたいという女性の声を受け、ワークショップの内容も女性自身が決定しました。実行にあたっては、技術と知識を持っているスタッフと連絡を取り、誰もが参加しやすいように各集落の中で開催しました。



女性のための刺繍ワークショップ

被災住民への医療、仮設住宅支援



「山奥には救援物資も医療の手も届いていない。」「地震がまた来そうで村に入ることすら怖いが、自分たちの手で何とかしなければ。」地図にも載っておらず、地元の人も知らないような山奥の地域には、支援の手が届いていませんでした。人々は、農道や木陰にテントを張り生活を再開させましたが、不衛生な環境の中での生活、昼夜問わず続く余震、終わりの見えない片付け作業が被災者の気力と体力を奪っていました。

しかし、地域には地震発生以前から<ゴトン・ロヨン>が機能しており、被災後もこの互助組織を中心となって炊き出し、瓦礫撤去、けが人の世話、救援物資の配布などが行われていきました。村人総出で学校やモスクなど公共性の高い建物の片付けを優先的に行うなど、人々の協働意識と自助努力の姿に頼もしさすら感じました。SVAは、カウンターパートNGOのSHEEPと、地域に根付いているゴトン・ロヨンを通じて甚大な被害を受けたバントゥル県、スレマン県とジョクジャカルタ市内の被災住民への支援を行いました。



倒壊したイスラム系大学

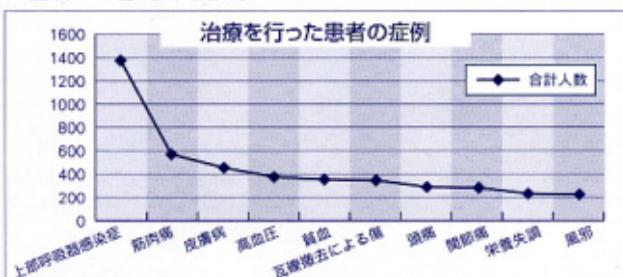


被災した家族

1 SHEEPのスタッフの医師・看護士による『医療支援』

延べ7,453名の無料診察・治療(2006年5月27日-12月)

- 巡回、在宅診療および仮設クリニックの設置及び治療
- 保健サービスの提供
- 高齢者対象：健康意識改善講習、定期健診、栄養補助食品の配布
- 乳幼児・母親対象：定期健診、栄養補助食品の配布、子どもの健康相談
- ・村落健康ボランティアの育成
- ・住民への基礎医療教育



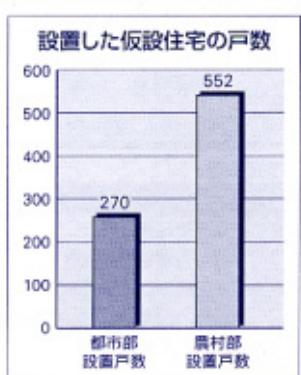
高齢者の定期健診

2 住民参加型の『仮設住宅支援』

仮設住宅822戸設置(2006年6月-12月)

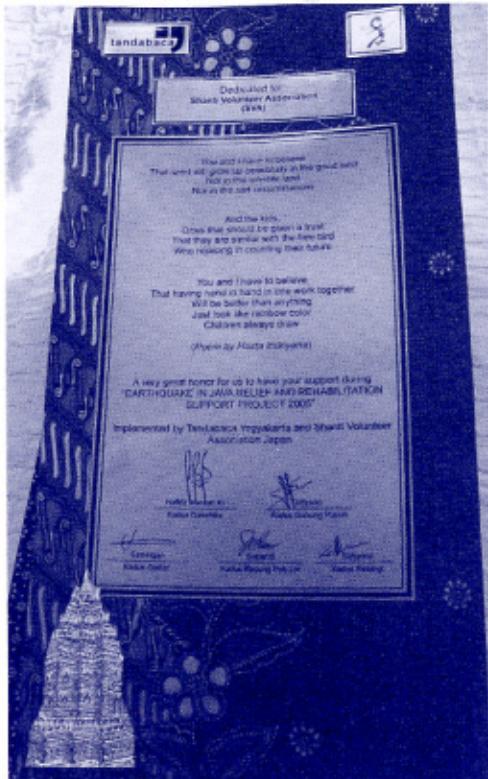
- 瓦礫撤去用具の供与
- 建築専門家チームによる研修会及び設置の際の技術指導

仮設住宅が将来的に恒久住宅へと進化していくよう、計画が立てられました。住民は、経済状況や自分の嗜好に合わせながら、破損した家の材料を再利用しつつ仮設住宅を設置していくことができました。



仮設を設置するSHEEPスタッフと住民

被災地からの感謝の声



記念品訳文 シャンティ国際ボランティア会館

信じよう!
その豊かな大地で美しく育つことを
不毛な大地でなく
哀しみに満ちた空気ではなく

そして子どもたちに…
真実を与える
自由な鳥と同じだということを
喜びをもって未来を夢見ることを

信じ続けよう!
手を取り合ってひとつのことに取り組むことは
何よりも素晴らしいことを
子どもたちがいつも描く虹色のようであることを

作成者 : Hasta Indriyana

(彼はTandaBacaのスタッフで半年間集落に住みながら活動に当りました。
子どもたちとの活動を通して感じたことを表した詩です)

“2006年インドネシア・ジャワ島中部地震支援事業”に
ご支援を賜りまして大変光栄に思っております。
誠にありがとうございました。

Nglembu 集落長：ハフィス・マストゥリ・アリ
Gunung Puyuh 集落長：ウイヨノ
Gedad 集落長：サミンガン
Kedung Poh Lor 集落長：スパンディ
Ketangi 集落長：スティヨノ

インドネシア・ジャワ島中部地震 緊急救援事業 決算見込 期間:2006年6月~12月末 (2006年5月27日午前5時54分、マグニチュード6.3の地震発生)

I 収入の部

区分	項目	予算額	収入見込
民間資金	個人からの募金	20,000,000	11,801,599
	関係団体・企業等からの募金	10,000,000	21,679,360
(1) 収入合計		30,000,000	33,480,959

II 支出の部

区分	項目	備考	予算額	支出見込
救援物資提供費	シェルター設置、寝具、衣類、生活・衛生用品、医薬品等		15,000,000	10,604,188
被災児童物資提供費	遊び場設置、学用品、制服・靴、遊具、図書等		5,000,000	6,787,896
被災児童支援費	子どもフェスティバル開催、トラウマケア等			2,607,916
(a) 被災者支援事業 小計			20,000,000	20,000,000
現地活動維持費	現地臨時雇用人件費、通信費、その他活動維持費		1,500,000	764,074
渡航・人件費	東京→インドネシア往復旅費		600,000	728,826
派遣人件費	派遣者(日本人)人件費、傷害保険、滞在経費等		900,000	1,553,711
広報・報告経費	募金呼びかけ・事業報告経費		1,500,000	253,274
その他活動維持費	通信費・その他連絡調整にかかる経費		500,000	431,894
(b) その他直接的経費 小計			5,000,000	3,731,779
① 直接事業費 計	(a) + (b)		25,000,000	23,731,779
② 事業管理費	①×20%		5,000,000	5,580,160
(2) 支出合計			30,000,000	29,311,939
(3) 収支差額	(1)-(2)		0	4,169,020
(4) 緊急救援基金へ繰入			0	▲ 4,169,020
(5) 収支差額再計	(3)+(4)		0	0



社団法人 シャンティ国際ボランティア会

私たちに向かいます。苦難の中にいる人々と世界に。

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F

Phone/03-5360-1233 Fax/03-5360-1220

URL/http://www.sva.or.jp E-mail/info@sva.or.jp